



関中学校だより

第7号 平成30年2月5日

ホームページアドレス <http://www.seki-j.nerima-kyo.ed.jp/>

1964年 東京オリンピック

～ オリパラ講演会 佐々木末昭氏 ～

校長 勝亦章行

ちょうど2年生のスキー教室は始まる2月9日に、韓国では平昌(ピョンチャン)冬季オリンピックが開催されます。日本選手の頑張りを大いに期待し、応援したいと思います。

さて、オリンピック・パラリンピック教育を行っています。関中学校では、平成30年1月13日(土)に、今から54年前に行われた東京オリンピックについての学習と講演会を行いました。

まず、1964年第18回東京オリンピックとは、どのようなオリンピックだったのでしょうか。

参加国・地域数	93
参加人数	5133人(男子 4450人、女子 683人)
競技種目数	20競技 163種目
開会式	1964年(昭和39年)10月10日
閉会式	10月24日 15日間
主競技場	国立霞ヶ丘陸上競技場
日本の獲得金メダル数	16個(アメリカ、ソビエトに次ぐ3位)

1964年東京オリンピックは、日本にとって太平洋戦争で敗戦し(1945年昭和20年8月)日本国土も焼け野原になり、その後の急速な復活を遂げた日本が、再び国際社会に復帰するというシンボリックな意味がありました。そして、アジアで初めて開催されたオリンピックでもありました。

よって1964年東京オリンピックは、国家プロジェクトとして実施され、国立霞ヶ丘競技場だけでなく、代々木競技場第一体育館、日本武道館、駒沢オリンピック公園等をつくり、開催日に合わせるように、東海道新幹線開業、東京モノレール開業、首都高速道整備等が行われました。その多くのもが今現在でも使われているものばかりです。

金メダリストには、平成29年11月24日に講演と実技指導をして頂きました、女子バレーボールの千葉勝美先生もいます。

生徒には、市川崑監督の「長篇記録映画 東京オリンピック」の開会式の様子を動画で見てもらいました。開会式の中の日本選手団の入場は、感動を覚えるシーンでした。

さて、この1964年東京オリンピックに出場した、水泳競技男子1500m自由形で、見事決勝に残り6位入賞(記録:17分25秒3)した方が、本校の水泳部コーチの佐々木末昭氏です。

佐々木末昭コーチから、少年時代は溜め池のプールで泳いだこと。オリンピック選考会で、新日本記録を出したことなどを語られました。また1964年第18回東京オリンピックの開会式の様子などを、話をいただきました。開会式前日は悪天候で、翌日開会式ができるのか心配されたとのこと。しかし、開会式当日は晴天となり、無事開会式が行われたこと。開会式の最後で鳩8000羽が放されましたが、飛び立ったときの鳩の糞が大変だったという、その場にいないければ知ることがない話も出ました。

そして、関中生に対して次のような話をされました。

- ・何事にもベストをつくせ。最後まで、あきらめるな!
- ・大きな夢でなく、小さな夢をコツコツと積み重ねていくことが大切。
- ・努力は、後で自分に必ず返ってくる。
- ・学校で学んだことを自分の財産にして、そして進学したときに、そこで活かす。学んだことを忘れるな。学校で学んだことを、学校に置いていかないこと。
- ・中学生時代が、一番大事な時期である。
- ・勉強、スポーツでも努力すること。両立していかなければ、ならない。

1月・2月 行事予定

日	曜	予定
9	火	3学期始業式
13	土	オリパラ講演会、2年スキー教室保護者説明会、区生徒作品展始
15	月	あいさつ運動
16	火	あいさつ運動
17	水	区生徒作品展終
18	木	あいさつ運動、漢字検定
19	金	あいさつ運動
22	月	小中一貫フォーラム、私立推薦入試
23	火	区連合ダンス発表会(1A出場)
26	金	3年都立推薦入試
27	土	区書きぞめ展
28	日	区書きぞめ展
2月		
1	木	ふれあい月間、都立推薦合格発表日、PTA本部会、中央委員会、SC来校
2	金	校内研修会(道徳)心の相談員来校
5	月	朝礼、学習発表会実行委員会
6	火	3年都立高出願、校内研修会(道徳)心の相談員来校
8	水	SC来校
9	金	2年スキー教室、1年カルタ大会
10	土	2年スキー教室、1年オリパラ研修会、3年私立校入学試験
11	日	建国記念の日、2年スキー教室、3年私立校入試
12	月	振替休日、2年スキー教室、3年私立校入試
13	火	2年代休、心の相談員来校
14	水	2年代休
15	木	SC来校
16	金	避難訓練、心の相談員来校
19	月	生徒会朝礼
20	火	PTA運営委員会
21	水	職員会議
26	月	期末考査(理国英)
27	火	期末考査(数社体)



講演をする佐々木末昭先生



水泳競技1500m自由形6位入賞の賞状と記録の盾



日本新記録を出したオリンピック選考会
先頭を泳ぐ佐々木末昭選手



1964年第18回東京オリンピック入場式の日本選手団
(昭和39年10月10日 国立霞ヶ丘陸上競技場)

生徒の感想

今回、佐々木コーチから聞いた話で感じたことは、やはりとてもすごい人であることを、改めて感じました。さらに関中の水泳部のコーチとして、私達を指導してくれているのは、本当にすごいことだと感じました。コーチにはもっと尊敬していきたいです。DVDの映像は、かなり画質が悪かったけれど、その時の雰囲気はかなり分かったので、勉強になりました。そして、水泳部のコーチの子どもの頃の写真も見られて良かったです。この話を聞いて改めて、自分の夢に向かって頑張ろうと思いました。

自分は佐々木コーチの話を聞いて、オリンピックは日本にとってとても大切なんだと思いました。また、オリンピックで日本は世界に認められたのかと思いました。また、昔の水泳はゴーグルや帽子がなく水泳がきつかったと思いました。そして、そこから日本代表になったりするの、とても尊敬できました。また、佐々木コーチの出身中学校の名前の略し方が関中学校と聞き、何か親近感を感じました。関中学校のコーチになったのも「関」という漢字のお陰だと感じました。

1500mと言う長距離を世界の強豪立ちと戦って6位になれたなんてとてもすごい人だと思いました。やはりオリンピック選手になった人って言うのは、普通の人は考え方やオリンピックに対する気持ちというのが、違ってくるんだと思いました。これからも僕は水泳により努力と時間をついやして、もっとも自分の種目のベストタイムを出していきたいと思いました。

開会式のビデオを見て、何万人もの人々の熱気、高揚感が伝わってくるようでした。あの中に佐々木さんが、この近くに住んでいる人だと思うと、それがとても誇りに感じました。佐々木さんは、何事にもベストをつくせ。大きな夢ではなく小さな夢をコツコツと叶えていくのもアリだと言っていました。私も何事にもベストをつくす事は、大切だと思います。その頑張っている姿は小さくとも、きっと人にちゃんと見てもらっていて、自分に返ってくると思うからです。

今日の講演会で、ほぼ全く知らなかった1964年の東京オリンピックを少しは知ることができたので、よかったです。校長先生が話していた今から54年前で金メダル獲得数が3位、そして一番驚いたのは、アジアで初めてのオリンピックであったということです。敗戦後である日本の外国との関係の修復や平和であることの主張であるように感じました。佐々木さんが言っていた人生の中で一番大切なのは、中学生の今であるということが、一番心に残りました。中学生の今を後悔のないように生きていきたいです。

初めて東京オリンピックの入場やすごさを感じることができました。戦争が終わって間もない時に、東京でやることが決まったとき、国民はとても喜んだと思います。世界中の選手が日本にやってきて、迫力のある競技を生で見た人は、とてつもなく感動したのではないかと思います。オリンピックは、勇気を与えてくれるものだと思います。2年後の東京オリンピックが楽しみです。

2020年に2回目の東京オリンピックがあるから、1964年の第1回東京オリンピックについて、詳しく知ることができてよかったです。まだオリンピックについての知識が不十分だったので、今回の講演はとても為になりました。私は今回のお話から、たくさんのことを学びました。私は、これから小さな目標を立てて、その一つ一つを確実にクリアしていこうと思いました。その一つずつを組み合わせ、たくさんを知っていきたいです。2年後のオリンピックに携わるように頑張りたいと思います。

今日の講演を聞いて、水泳で入賞した選手が水泳部に来て下さっていることを知り驚きました。東京オリンピックの開会式は、とても賑わっていて、私もその瞬間を実際に見たかったと思いました。昔は整った環境があったわけではないのに、その中でそれぞれの競技で名選手が結果を残したことが、本当にすごいと感じました。私も、一つのことをとことん追求して佐々木選手のように、夢を実現したいと思います。今日はありがとうございました。

東京オリンピックの開会式のビデオが印象に残りました。戦後ですが、多くの匡が一丸となってスポーツをすることが素晴らしいと思いました。また、戦後にもかかわらず、復興を遂げてオリンピックを行えたことも、すごいと思いました。佐々木さんのお話にもあったように、諦めず努力をし続けていきたいと思っています。

私は、佐々木さんの話を聞いて、中学校で水泳部に入り、2.5Km離れたため池で練習していたと聞いて、今の時代のプールは学校にあって、透明だけど、昔は真っ青でため池の中は、藻やいろんな生き物がいるから、泳ぎ終わったら、いろんな物が体に張り付いていると思うと、ゾッとしました。それでも、たくさん練習してオリンピックの選考会で、1500mを泳ぎ切った上に、日本記録を更新したのは、すごいなと感じました。たとえメダルを取れなくても、オリンピックに出られることは、すごいことだと思いました。

今回話を聞いて、中学生のこの時は、これからの人生でとても大事な時期だと言っていたので、残り少ない学校生活一日一日を大切に、学校で学んだことを学校に置いたまま、卒業することがないようにしたいと思います。また自分が達成できないような大きすぎる目標ではなく、今の自分にとって、合った目標を立てて、少しずつ達成していきたいと思います。昔、コーチが中学生の時の練習は、今の練習に比べて環境がよくなかったのが、良い環境で練習できていることに感謝していきたいです。

東京でオリンピックを二度開催できるということは、すごいことで、当たり前にはできないことじゃないんだなと改めて感じました。前回の東京オリンピックより成長し、進化した二度目の東京オリンピックになるよう自分たちができることをやりたいと思いました。今回のお話で実際に東京オリンピックは見られていないけど、詳しく内容を聞けたので、良い体験をしたなと思います。泳いでいる途中にハプニングがあったのに、泳ぎきったというお話が、とても印象的で心に残りました。私は思い通りに物事が進まないとき、よくあきらめてしまいがちです。今後は諦めずに、最後までやり通すことを大切にしたいと思いました。今日のお話で大切なことが学べて良かったです。そして、とても楽しかったです。

佐々木コーチは、地元の池や海を使って水泳の練習をしていたと聞き、当時は、水泳の練習をすることはとても大変なのだと思いました。また、水泳のお話だけでなく、オリンピックの開会式での様子等も聞くことができ、とても貴重なお話だったと思いました。面白い話も混ぜながら話をしてくださったので、聞いていて楽しかったです。佐々木コーチがおっしゃっていた、努力したことは、後で自分に必ず返ってくるという言葉が、印象に残りました。今日はありがとうございました。

最後に紹介する「17分間の長い旅」は、文豪三島由紀夫が、この1964年東京オリンピックで、様々な種目を観戦し新聞に掲載をしました。男子1500m自由形決勝の佐々木末昭選手のことを書いています。全部掲載しませんが、佐々木末昭選手のゴール近くの描写について書かれた部分を紹介します。

17分間の長い旅 三島由紀夫

男子千五百メートル自由形決勝。(途中省略)千五百メートルのところで、あと九回という9の札が示される。

佐々木はひたすら泳ぐ。水に隠れる顔は赤らんでみえる。あの苦しげな、目をつぶり口をあいだ顔、あのぬれた顔、ぬれた額の中に、どんな思念がひそんでいるか？ あんな最中にも、人間は思考をやめないのは確実なことで「ただ夢中だった」などというのは、ウソだと私は思う。それこそ人間という動物の神秘的な。たまたそれが、一点の、小さな炎のような思念であるうとも。

最後の百メートル。真ちゅうの鈴が鳴らされ、選手はラスト・スパートをかける。佐々木は六位だった。平然と上げている顔を手のひらで大まかにぬぐい、出発の時と同様、左の手首をちょっと振った。それが彼の長い旅からの、無表情な帰来の合図だった。この若者はまた明日、旅の苦難を忘れて、つぎの新しい旅へ出るだろう。

(1964年昭和20年10月18日 毎日新聞に掲載される)

校内書き初め展

冬休みの宿題でもあった書き初めですが、生徒の作品を各教室に掲示しました。そして、国語科の先生が審査し、「金」、「銀」、「銅」を決めました。

各学年の書き初めの課題は、次の通りです。

1年	表現の美	文武両道
2年	科学の探究	世紀の祭典
3年	記録に挑戦	時代の潮流



各教室に展示された書き初め（写真は3年）

第65回 練馬区小中学校連合書きぞめ展（1月27日～28日）

平成29年1月28日～29日の2日間、練馬区立美術館で、第65回練馬区小中学校連合書きぞめ展が開催されました。関中学校からは、12人の生徒の書き初めが展示されました。



書きぞめ展は、小学校、中学校の全校の書きぞめが出品された

関中の作品

小中一貫教育の一環として、小学校と中学校で合同あいさつ運動



石神井台小の児童と合同のあいさつ運動（関中正門）

石神井台小学校と関中学校が合同のあいさつ運動を実施しました。1月15日、16日の二日間は、石神井台小学校で実施。1月18日、19日の二日間は、関中学校で実施しました。小学生は代表委員会の児童たち。中学生は生徒会役員の生徒たちが参加しました。関町北小学校とは、11月28日、29日に関町北小学校で合同あいさつ運動を実施しました。

児童・生徒表彰式（平成30年1月12日）

練馬区教育委員会では、さまざまな活動の場において、一生懸命努力している子どもたちを応援するため、児童・生徒表彰を行っています。

1月12日（金）に練馬区立生涯学習センターで、スポーツ・文化芸術などで活躍した個人（209人）、団体（11組）が表彰されました。関中学校では、個人（9人）、団体（1組）が表彰を受けました。

	学年	氏名	表彰理由
個人の部	2年	小山	剣道で優秀な成績
	2年	松尾	剣道で優秀な成績
	2年	有田	硬式野球で優秀な成績
	2年	有田	硬式野球で優秀な成績
	3年	加藤	軟式野球で優秀な成績
	3年	中駄	新体操で優秀な成績
	3年	大平	剣道で優秀な成績
	3年	藤田	サッカーで優秀な成績
	3年	下方	水泳で優秀な成績
団体の部		剣道部	剣道で優秀な成績



河口 浩教育長先生から一人一人賞状を受け取りました。団体の部は、剣道部が受賞しました。

練馬区中学校生徒作品展（1月13日～17日）

練馬区内中学校の美術科の作品、技術・家庭科の作品、特別支援学級の作品を集め、練馬区立美術館を会場に、生徒作品展が、平成30年1月13日（土）～17日（水）の4日間（美術館休館日を除く）開催されました。

各教科の先生の指導のもとに、中学生の豊かな創造力と感性から生み出された作品が展示されました。関中学校からも、力作が多く展示されました。



美術科の作品（自画像・修学旅行色紙）



家庭科の作品（トートバック等）



美術科の作品（アートクロック）



技術科のキーホルダー



生徒作品展会場の様子（練馬区立美術館）



家庭科の作品（布絵本）

我が国固有の文化を教えています。

音楽科「笙の授業」、保健体育科「剣道の授業」

音楽科では、箏（そう）、三味線、尺八、篠笛、太鼓、雅楽で用いられる楽器などの和楽器については、中学校第1学年から第3学年までの間に1種類以上の和楽器を扱い、表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるようにすることが求められています。生徒が実際に演奏する活動を通して、音色や響き、奏法の特徴、表現力の豊かさや繊細さなどを感じ取ることは、我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことにつながっていきます。授業では、箏（そう）による「さくらさくら」を演奏しました。

関中学校では、保健体育科の「武道」は、剣道を行っています。（必修になった武道は、剣道、柔道、相撲から選ぶことになっている。）

1、2年生は、2時間の剣道の授業を行いました。練馬区剣道連盟の先生が指導してくれています。

とても寒い日が続いていますが、生徒たちは、素足で気合いを入れて授業を受けました。

「武道」は、我が国固有のものでもあり、単なる技の習得でなく、心の鍛錬という要素があります。

「心技一体」「礼に始まり 礼で終わる」という言葉もあります。授業では、基本動作、礼法、竹刀の握り方、構え、体さばき、素振りなどを行いました。



1年音楽の授業の様子（箏）



箏（そう）

平成29年度 ねりま小中一貫教育フォーラム（1月22日）で発表しました。

練馬区教育委員会では、「小中一貫教育」を大きな柱としてその充実を図っています。練馬区教育委員会が取り組む小中一貫教育は、

従来からそれぞれの小中学校で目指してきた学力・体力の向上や豊かな人間性・社会性の育成、安定した学校生活に向けて、小学校と中学校が連携・協力し、9年間を見通して地域の子どもを育てる視点をもつことで、より一層の教育効果をあげようとするものです。

石神井台小学校・関町北小学校・関中学校の3校は、一つのグループとして、平成26年度、平成27年度の2年間は、グループ研究校として研究を進めてきました。今年度は、実践校2年目として、小中一貫教育フォーラムでは、「紙上発表」と「ポスターセッション」に参加しました。

石神井台小学校・関町北小学校委・関中学校グループの研究主題は「中1ギャップの解消を図るための小中一貫教育の工夫」として、3つの分科会をつくり研究をしています。3つの分科会とは、

教科分会会（国語、算数・数学、外国語活動・英語）・・・小学校と中学校の学習指導上の課題や指導法を情報交換し、課題解決カリキュラムを作成し実践する。
 交流分科会・・・小学校と中学校の様々な交流を図る。
 スタンド分科会・・・生活規律及び学習規律の指導について、情報を共有し、児童・生徒の発達段階を踏まえながら、よりよいものを目指す。

ポスターセッションは、ココネリ（Coconeriホール）を会場に33中学校区と大泉桜学園の34のポスターが展示されました。各ポスターには、説明者がついて、様々な質問に答えていました。練馬区では、小中一貫教育がすべての小中学校で実施されています。



関中・石神井台小・関町北小のポスター

平成29年度関中学校区小中一貫教育

関中学校区
関中学校
石神井台小学校 関町北小学校

中学校区の特徴
小学生は、中学校の進学に向けて新しい生活の習慣を身に付けること、国語、算数、理科、社会、英語、音楽、体育、保健に不安を感じている。関中グループは、こうした現状を踏まえ、「中1ギャップの解消を図るための小中一貫教育の工夫」を研究テーマとして取り組んでいます。

目指す児童生徒像

- 学習の基本をしっかり身に付け、活字や学習にも進んで考え、意欲よく取り組む児童・生徒
- 互いの交流を通して思い遣いをもち、小学生と中学校との関係・関心を深めて不安を解消し、中学生は自己肯定感をもてる児童・生徒
- 学校のきまりや共通の基準によって、主体的に行動する力を見出し、互いに励ましあえる児童・生徒

- 目指す児童生徒像の具現化に向けた取組
 - ア 学力・体力の向上
 - イ 【国語研究会】「読書」、「読書」に重点を置いた研究発表を行った。
 - ロ 【算数・数学部会】中学校で課題を受け、小学校間で指導を統一できる手法を考えた実践した。
 - ハ 【外国語活動・英語部会】「関中」、「関小」に重点を置き、聞くことと必然性がある授業の導入を行った。
 - ニ 豊かな人間性・社会性の育成
交流分科会において小・中1年の諸活動の交流を情報交換し連携のあり方を協議した。
今年度の主な取組
① 中1年間の中学校訪問 ② 中学生の職場体験 ③ 「あいさつ」運動 ④ ようこそ先輩
⑤ タイムアップアンソング部会発表 ⑥ 中学校の先生による小学校特別授業
 - ヒ 安定した学校生活
ア 生活時制や学習規律などについて情報共有を図る。
イ SNSを介したトラブルに対して、学校SNSを4グループごとをまとめる。
- 教育プラン推進のための推進組織

日 程	内 容
4月11日	小中一貫部会
6月28日	第1回校別協議会
8月21日	小中一貫部会
9月8日	学校説明・新着児童学校
9月11日	交流部会（特別発表について）
9月12日	中学生の職場体験
9月28日	関町北小学校「5年生活体験」
11月16日	第2回校別協議会
11月～12月	合同あいさつ運動
12月1日	石神井台5年 中学校訪問
1月20日	小中一貫部会（6、7、8年分）
2月15日	生徒発表会
3月12日	ようこそ先輩
3月12日	生徒発表会報告書・タイムアップアンソング部会発表

関中学校区の小中一貫教育について

第52回 練馬区立中学校連合ダンス発表会（1月23日）

平成 30 年 1 月 23 日（火）練馬区立練馬文化センター大ホールで、第 52 回 連合ダンス発表会が開催されました。保健体育科では、ダンスは必修となっています。ダンスは、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」から選択することになっています。

連合ダンス発表会は、生徒たちが考えた「創作ダンス」を発表するものです。区内 31 校の発表が行われました。3 校は、残念ながらインフルエンザにより学級閉鎖・学年閉鎖のため、出場できませんでした。学校によっては男子生徒も参加した学校がありました。（ダンスは、男女ともに必修）

関中学校は、校内選考会を経て、1 年 A 組女子が代表として参加しました。自分たちで考えたダンスを精一杯表現しました。走りながらのクロスあり、連続的な動きが多く、ウェーブあり、大変に素晴らしいダンスでした。

平成29年度 いじめ防止実践事例発表会 ～シンボルマーク～（1月30日）



優秀賞を受ける大石さん



平成 29 年度のいじめ防止実践発表会が、平成 30 年 1 月 30 日、練馬区生涯学習センターで開催されました。

今年度は、いじめ防止シンボルマークについての表彰式もありましたが、1 年大石さんの作品が、優秀賞を受賞しました。

このシンボルマークは、漢字の「友」の字の中に 2 人の人間が背中を合わせ、手を結んでいるもので、2 人は友であり、友情もあるというイメージが感じられました。

独創的で素晴らしいシンボルマーク

だと思います。いじめは、人権侵害であり、許される行為ではありません。いじめは、してはいけません。

インフルエンザ「東京都 流行警報 発令中！！」

全国的にインフルエンザが流行しており、東京都も流行警報が発令中です。関中も含め、区内小学校、中学校で学級閉鎖・学年閉鎖が出ています。

今年度は、A 型と B 型が混在して流行しており、過去に例のない流行になっています。

関中学校では、2 年スキー教室が、2 月 9 日～12 日に実施。3 年生は、2 月 10 日から私立高校一般受験がスタートし、2 月 23 日は、都立高校受験日です。手洗い、うがいの励行とマスクの着用で、感染防止に努めて下さい。

インフルエンザは、学校感染症の一つで出席停止扱いになります。欠席にはなりません。保護者の皆さまへ、お子さんが体調が悪い場合は、無理をさせず休ませて下さい。

登校届は、関中HPよりダウンロードできます。



練馬区明るい選挙啓発ポスターコンクール 入賞作品





無料通信アプリ（LINEラインなど）を介してのトラブルに注意して下さい。

スマートフォン（多機能携帯電話）などの無料通信アプリ（ラインなど）を介しての生徒間のトラブルが、社会全体でも問題になっています。

関中学校では、携帯電話やスマートフォンを学校に持ち込むことは「厳禁」です。

校外での使用により、行き違いや表現が不適切なために誤解が生じ、トラブルが発生してしまうことがあります。もちろん、悪意をもって相手を中傷誹謗する言葉を相手に送ることは、行ってはいけません。悪意をもって写真や動画などを発信することも、人権侵害になります。子どもだから許されることはありません。

何かあれば学校へ相談して下さい。また専門の相談機関もありますので、紹介します。

東京都青少年・治安対策本部青少年課「こたエール」(電話：03-3500-5181)

2月は「ふれあい月間」(いじめ防止月間) ~ 2月5日の全校朝礼での校長講話より~

インフルエンザ感染防止のために放送で話をします。2月4日は立春でした。日本には四季があり立春、立夏、立秋、立冬があります。その前日は節分です。しかし、立春が1年の始まりということで、2月3日の節分では無病息災を願い、邪気をはらうために豆まきを行います。「鬼は外、鬼は外。福は内、福は内。」皆さんの家でもやりましたか？ 先生の家ではやりました。

さて、2月はふれあい月間です。ふれあい月間は、6月、11月、2月にあります。友達同士のふれあい、先生とのふれあいを大切にしようという意味と、いじめ防止月間という意味があります。学年によって違いますが、いじめアンケートを実施します。

11月のふれあい月間で、人間(ホモ・サピエンス 意味は、賢い人間)が長い火山の冬を乗り越えて今現在に至っているとう話をしました。危機を乗り越えられたのは、お互いに助け合ったからです。私たちの体の中にあるDNA、遺伝子には、そのことが組み込まれています。

今日は、その続きの話です。本当に、現在生きている人間にも、お互いに助け合う、分かち合うという心があるのでしょうか？

そこで、日本も含め15カ国である実験が行われました。それは、1000円札10枚(1万円)(日本)を、あなたが全く見ず知らずの人にどれだけあげるかという実験です。もちろん全部自分のものにしてもらえません。その結果は、誰にも知らせず人の目を気にする必要もありません。その結果、日本では、56%を自分のものにして、44%を全く見ず知らずの人にあげたそうです。アメリカでは、53%を自分のものにして、47%を全く見ず知らずの人にあげたそうです。15カ国で、少なくとも20%はあげる結果になったということです。縁もゆかりもない人に対して、わかちあわなければいけないという気持ちを、程度の差こそあれ、現代人は心に秘めていることが立証されました。

11月の朝礼でも言いましたが、私たちの体の中には、あるDNA、遺伝子が組み込まれています。それは、お互いに助け合う、相手の気持ちを推し量る気持ち、ともに協力する気持ちです。関中には、いじめはないと信じていますが、友人とうまくいっていない人がいるかもしれません。自分勝手にならず、自分だけよければいいというのではなく、相手の気持ちも考えることが大切です。